

東部丘陵地(京都府城陽市)中間エリア 概要説明資料

(1) 城陽市の概要

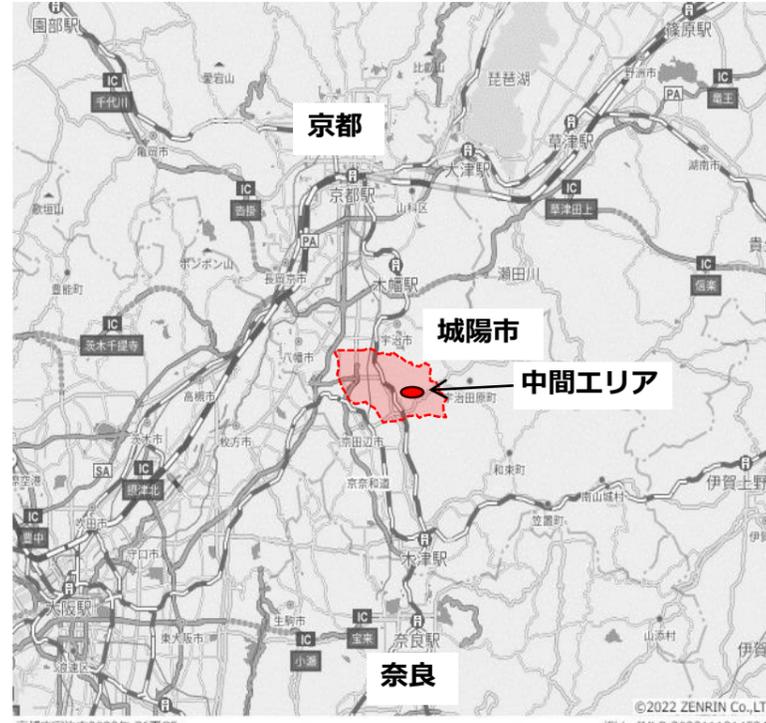
京都府城陽市は、京都と奈良の2つの古都の間に位置する“五里五里のさと”として、多くの古人が街道を行き交い、文化・交通の要衝として発展してきました。

西には木津川が流れ、東には広大な丘陵地を有するなど、変化に富んだ地形をしており、温暖で暮らしやすい気候が特徴です。

城陽市東部丘陵地における山砂利採取は昭和35年頃から開始され、現在、山砂利採取が行われている一方で、(一財)城陽山砂利採取地整備公社が主体となり山砂利採取地の埋戻し事業を進めています。

今後、新名神高速道路の全線開通に伴い、京阪神と中京圏の2大経済圏を結ぶ国土軸の一翼を担うこととなり、ヒト・モノが大きく動く中で、歴史性に富んだ“五里五里のさと”と未来に繋がる“国土軸の都市”が交わる立地特性を生かすことで、近畿地方の拠点地域として新たな交流を生み出すことが可能となると考えています。

城陽市及び、中間エリアは、上図に位置しています。



位置図

(2) 東部丘陵地中間エリアの土地利用概要

京都府の第7回都市計画定期見直しにおいて、中間エリアを一般保留フレームに設定し、企業ニーズを踏まえた土地利用の検討を行っていきますので、現段階ではフレキシブルに土地利用計画を定めることが可能です。

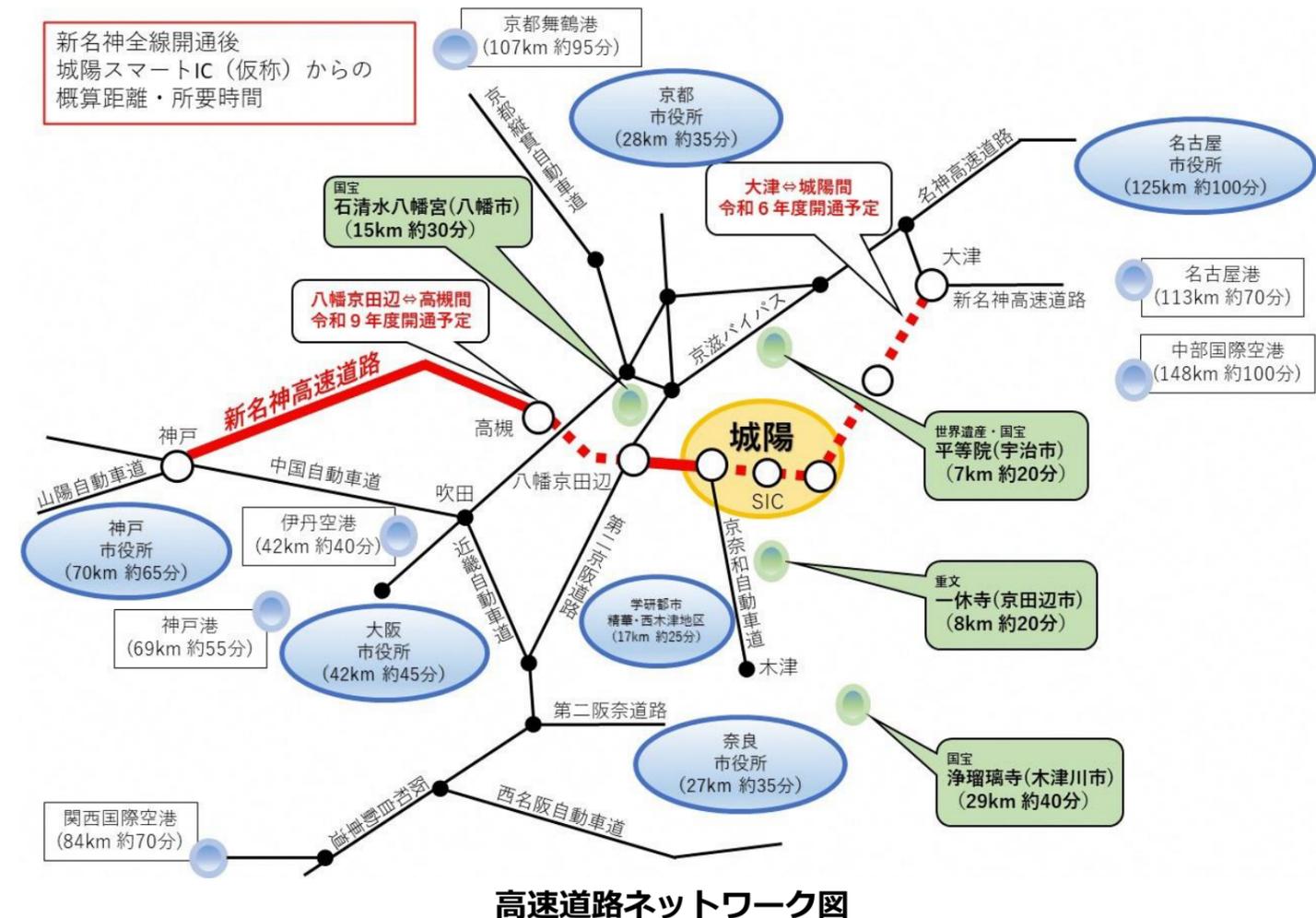
※一般保留フレーム：7年～8年ごとの定期見直しを待たず計画熟度が高まった段階で市街化区域編入することが可能なエリア

(3) 道路幹線ネットワーク状況

新名神高速道路は名古屋から神戸市を結ぶ延長174kmの高速道路のうち、城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・ICは平成29年(2017年)4月に開通しています。

大津JCT～城陽JCT・IC間の開通は令和6年(2024年)度末と予定され、長池地区では城陽SIC、青谷地区では宇治田原IC(仮称)の設置が予定されています。

新名神高速道路の側道として、東部丘陵線の整備を進めています。



○市政情報

市域：東西9.0km、南北5.4km、総面積32.71km²。

人口：約7.2万人

交通網：JR奈良線(城陽駅、長池駅、山城青谷駅)

近鉄京都線(久津川駅、寺田駅、富野荘駅)

※京都市と京阪奈丘陵、奈良市を結ぶ主要な交通が市内を縦断

新名神高速道路(城陽JCT・IC、城陽SIC(仮称)、宇治田原IC(仮称))

商工業：事業所総数2392事業所(H28経済センサス活動調査)

京都山城白坂テクノパーク(14社)、サンフォルテ城陽(32社)の企業立地

金銀糸製造業

農業：梅、茶、芋、イチジク、花しょうぶ等

(4) 東部丘陵地における開発予定状況

○ (仮称) 京都市城陽プレミアム・アウトレット計画

新名神高速道路開通以降、東部丘陵地長池先行整備地区において、プレミアム・アウトレット開業が予定されています。

○ 高速道路 IC 直結「次世代型物流拠点」開発計画

京都府城陽市東部丘陵地青谷先行整備地区において、新しい物流システムに対応した、高速道路ICに直結した「次世代型物流拠点」の開発計画が進んでいます。2026年に竣工を迎える予定で、高速道路ICに直結した専用ランプウェイの整備を行う物流施設の開発です。

(5) スケジュールイメージ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
都市計画スケジュール		一般保留フレーム設定	※計画熟度が高まった段階で市街化区域編入予定				
新名神高速道路							
国道307号(改良区間)							
東部丘陵線							
国道24号城陽井手木津川バイパス							
城陽橋							
事業計画案(イメージ)	サウンディング	事業検討/地権者協議	許認可手続き	工事 ※基盤工事完了箇所から順次まちびらき			



中間エリア位置図(拡大)